

特集「並列処理」の編集にあたって

中 島 浩†

恒例の「並列処理」特集を今年も会員諸氏にお届けする。冒頭から私事で恐縮ではあるが、この特集の序文を執筆させていただいたのは1994年(Vol.35, No.4)以来二度目になる。当時は別名「JSPP 特集」と呼ばれており、投稿論文は「並列処理シンポジウム JSPP」での発表論文に基づくものに限定されていた。その後1997年からは論文募集範囲をオープンにし、JSPP 関係以外の論文も徐々に増加していった。今回はその傾向が顕著に現れ、49件の投稿に占める JSPP 関係論文の比率は約1/3となった。

これが JSPP の衰退を意味するものではないことは、言うまでもない。実際、昨年6月9日~11日に筑波国際会議場で開催された JSPP'99 では、33件の一般論文と28件のポスター論文が発表され、参加者も300名に近いという盛況であった。これは瀧 和男実行委員長(神戸大学工学部)を始めとする実行委員/プログラム委員の方々ならびに主催研究会の関係者の方々のご尽力に負う所が大きい、何より我国における並列処理研究の隆盛に支えられたものである。

では JSPP 関係論文の占有率減少の原因は何かというと、実はこの研究の隆盛にほかならない。すなわち、並列処理の分野での優れた研究の成果は、年に一度という限られた機会ではカバーできないだけの数に達しているのである。その意味で本特集が論文投稿機会を増やす役割を果たせたことは意義深く、この分野で活躍されている方々の需要に少しは応えられたのではないかと密かに自負している。

さて、もう1つ6年前とは大きく違っているのは編集の体制である。当時は JSPP のプログラム担当幹事が査読割当てなどを一手に引き受けていたが、1998年からはゲストエディタ制度に基づき特集号編集委員会が組織され、各委員がメタレビューアとして数件の論文を担当するシステムとなった。今回も JSPP 実行委員会/プログラム委員会の若手幹事の方々、各主催研究会からの実行委員の方々、各委員をお願いし、論文誌編集委員会からは並列処理に造詣の深い3名の方々に幹事としてご尽力いただいた。この委員の方々ならびに査読者の方々には、短期間に多数の論文を査読するためにいろいろご無理をお願いしたが、そのおかげで無事に30編もの論文を本号に収録することができた。

論文の技術分野についても、6年前とはかなり様相が変わってきている。前回の序文ではソフトウェア関連論文が約半数となったことから「論文のソフト化が進んでいる」と述べたが、年々この傾向が進み今回は3/4を占めることとなった。またソフトウェア関連のものを大別すると、コンパイラ/ランタイムなどシステム技術に関するものと、アルゴリズム/応用といった問題指向のものとはほぼ同数で、全体としてバランスの良い構成となっている。特に応用に関する論文の比率は過去には見られない高さであり、並列処理の本格的実用が進んだことを物語っている。

さて今世紀最後の「並列処理」特集は無事に刊行することができたが、来世紀に向けた活動はすでに始まっている。まず、間もなく開催される JSPP2000 が終ると、21世紀最初の「並列処理」特集の編集委員会が組織される予定である。また前述の投稿機会拡大の面では、本特集の対象分野の多くをカバーする研究会論文誌「ハイパフォーマンスコンピューティングシステム(HPS)」の第1号と第2号の刊行が年内に予定されている。この HPS 論文誌と本特集の関係については今後議論を進めて行くが、当面は Journal と Transaction という各々の立場で手を携えつつ、並列処理分野の発展に貢献して行くこととなっている。

最後に特集編集委員会、査読者、論文誌編集委員会、学会事務局の皆様のご尽力と、本特集に投稿された著者の方々のご貢献に感謝の意を表して結びとする。

なお、本特集号はゲストエディタ制度により、以下の特集編集委員会の責任で編集を行った。

[並列処理] 特集編集委員会

- 委員長：中島 浩(豊橋技科大)
- 幹 事：久我守弘(熊本大), 小池汎平(電総研), 森眞一郎(京大)
- 編集委員(順不同)
 - 秋山 泰(新情報), 石川 裕(新情報), 上田和紀(早大), 加藤和彦(筑波大), 喜連川優(東大), 佐藤三久(新情報), 建部修見(電総研), 玉木久夫(明大), 平木 敬(東大), 本多弘樹(電通大)

† 豊橋技術科学大学情報工学系